

第42回夏季大学「新しい気象学」実施報告

教育と普及委員会

日本気象学会は、最新の気象学の普及を目指して、小・中・高等学校の先生方と気象を学ばれている学生や一般の方を対象とした講座を「夏季大学」と銘打って、毎年夏休みの時期に開催している。第42回（2008年）は、「気象のシミュレーション III」をテーマに取り上げ、8月2日（土）、3日（日）の2日間、東京の気象庁講堂で開講した。

夏季大学では、第40回（2006年）・第41回（2007年）と「気象のシミュレーション」をテーマに講義を企画してきた。第42回は、その締めくくりとして、大気・海洋・陸面等の相互作用を考慮した地球規模のシミュレーション技術や、それらを応用した季節予報業務、最新の数値予報とデータ同化技術を利用した過去の気候の再解析に関する話題を取り上げた。また、3日（日）の午後には、アジア初の長期再解析データである JRA-25 を用いた気候データ解析の実習を行った（第1図）。講師名と講義題目を、第1表に掲げる。

今回の新しい試みとして、実習に使った気象データの可視化ソフト「GrADS」の受講者各自のパソコンへのインストールおよび動作確認を講義前日までに予め行っていただいた。動作確認の済んだパソコンを持ち込んでいただくことで、当日の実習をスムーズに進められたと考えている。また、すべての受講者に実習



第1図 実習風景、東西風と気温の緯度-高度断面を実際に描画し、中高緯度では温度風の関係が良く成り立っていることを確認している。

第1表 第42回「夏季大学」の講義題目と講師名（敬称略）。

8月2日（土）	
気候システムのモデル化から地球システムのモデル化へ～地球温暖化予測モデルの現状と今後の展望～	行本 誠史（気象研究所気候研究部）
季節予報モデルについて	新保 明彦（気象庁地球環境・海洋部気候情報課）
大気海洋結合系のシミュレーション	小守 信正（海洋研究開発機構地球シミュレータセンター）
8月3日（日）	
気候のための再解析 JRA-25	大野木 和敏（気象庁予報部数値予報課）
<実習> JRA-25 を使おう	海老田 綾貴（気象庁地球環境・海洋部気候情報課）

用のデータの入った CD-ROM を配布し、講義後も自宅で解析ができるようにした。

今回の受講者は60名程度で、年齢は20代から70代までと幅広い年代の方々が参加した。気象のシミュレーションというやや高度なテーマの性質上、参加の目的は業務・勉強という参加者が多く、大学生・大学院生の参加も2割程度あった。関東地方の方が多いのはもとより、遠くは東北地方や九州からの参加もあった。毎回、気象を学ぼうという意欲のある方々の年齢層の広さや行動力は主催者側としては嬉しい限りである。また、参加者のうち日本気象学会の会員は6割程度であった。

全講義終了後に受講者から提出していただいたアンケートによれば、講義の難易度に関しては概ね好評であった。シミュレーションの目的や重要性を示しながらわかりやすく説明していただいた講師の方々に感謝する次第である。実習に関しては、8割以上の受講者が興味深いと回答されていた。その一方で、「全ての受講者がパソコンを持ち込めるわけではないので、主催者側で用意してほしい」というご意見もいただいた。実習は受講者が気象データの解析を実感できる良い機会であるため、今後も取り入れていきたいが、パ

ソコンの台数確保等の問題も含め、受講者のニーズへの対応は今後の課題であると考えている。今後のテーマとしては、地球温暖化や気候変動に関する話題と、竜巻や短時間強雨等の局地的な顕著現象に関する話題を希望する声が多かった。このことは、社会的関心の

高い現象に関する最新の知見を得る場としての、夏季大学への期待の表れともいえる。これらの意見を参考にしながら、今後ともさらに充実した夏季大学を企画したい。